

恵庭市長定例記者会見（R8. 7. 1）



お忙しい中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。

本日は、第2回定例会が終了しましたので、議会を終えての所感、並びに今後予定する事業などについて発表させていただきます。

今議会におきましては、「令和8年度一般会計補正予算」などについて審議いただきました。その全ての議案についてご承認いただきましたことに、まず感謝を申し上げます。

また、一般質問や各委員会で、市政の各般にわたる課題に関し、ご議論をいただきましたので、今後の市政に生かして参ります。

初めに、「千歳市との1次救急外科診療体制の確保に係る連携」についてであります。

限りある医療資源を効率的かつ効果的に活用し、将来にわたり1次救急外科診療に関する安定した提供体制の確保を図ることを目的に、10月1日から平日の1次救急外科診療について恵庭市と千歳市が連携し、当番医制の共同運営を行います。

現在本市および千歳市において診療を行っていない空白日を相互に補完することで、市民に対し持続可能で安定した夜間の診療体制を確保してまいります。

2点目は、「島松水泳プールのリニューアルオープン」についてであります。

旧施設の老朽化に伴い、令和6年度から閉鎖となっていた島松水泳プールが、6月20日にリニューアルオープンいたしました。

本施設は学校教育の場としての機能はもとより、小学校の水泳授業以外の時間帯には広く市民の皆さまにも開放を行うもので、管理棟には冷房設備のあるコミュニティスペースを設けております。

この場所は単なる休憩場所にとどまらず、地域の皆さまが世代を超えて語り、交流を深める憩いの場となり、スポーツを通じた健康づくりと地域コミュニティの醸成が一体となって進むことを期待しております。

3点目は、「グリーンスローモビリティ実証事業」についてであります。

6月27日より、「グリーンスローモビリティ」を活用した実証事業を開始しました。時速20km未満で公道走行が可能な電動カートを用いてガイド付きの特別なガーデンツアーを運行しています。

本事業の目的は、観光体験の質向上と地域住民の負担軽減の両立です。近年、観光客の増加に伴うマナーの問題や、庭園維持の担い手不足といった課題が生じております。そこで、移動そのものを観光コンテンツ化し、ガイドが同行する限定ツアーへとシフトすることで、安全かつ快適にまちの魅力を体感できる仕組みを構築します。

本事業の実施を通して、「花のまち恵庭」のブランド力を高め、持続可能な観光モデルの確立を目指してまいります。

4点目は、「**緊急防災ラジオの抽選販売**」についてであります。

災害時などに自動起動し、緊急情報をお知らせする機能を備えた緊急防災ラジオについては、昨年11月と今年3月にそれぞれ50台ずつ販売いたしました。販売開始と同時に完売となり、多くの反響をいただいたところであり。せっかく会場にお越しいただいたにも関わらず、購入できなかった方が多くいらっしゃったことから、今回新たに100台を「抽選販売」方式で販売することといたしました。

抽選の応募期間は7月1日から31日までであります。定価は1万円ですが、市が半額を助成しますので税込5,000円で購入できます。ぜひご利用をお願いしたいと思います。

5点目は、「**（仮称）島松地区複合施設愛称の決定**」についてであります。

市が令和8年度中の供用開始を目指し整備している「島松地区複合施設」について、たくさんの人に愛され、親しまれる施設となりますよう、3月2日から4月3日までの間、愛称を公募したところ、950件の応募をいただきました。市内外から大変多くの皆さんにご応募いただき、ありがとうございました。

愛称選定委員会の審査の結果、愛称はひらがなで「しまのわ」に決定いたしました。

「しまのわ」と記載した応募者は12名おり、中学生や高校生も含まれております。「島松地区の地名と、多世代が集い交流する『人と人の輪』『地域の和』『未来へ繋がる環』を組み合わせた愛称であり、子どもから高齢者まで多世代が集い、交流し、地域の絆が深まり笑顔が広がる場所になってほしい、また島松の未来へとつながる温かな拠点になってほしい」という想いが込められております。

この「しまのわ」に込められた思いを大切にしながら、整備を進め、市民に愛される施設となるよう努めてまいります。

6点目は、「**サイクルフェスタ・恵庭の終了**」についてであります。

本事業は、平成23年度に自転車道整備の検討を契機として、「えにわ・自転車散歩」として開始した自転車イベントです。平成28年度からは、名称を「サイクルフェスタ・恵庭」とし、市内外から多くの皆さまに参加いただけてきましたが、他自治体において重大事故が発生するなど、安全確保に対する要請が一層高まっております。

こうした状況を踏まえ、3月に開催されたサイクルフェスタ・恵庭運営協議会において、慎重に協議を行った結果、令和8年度以降の事業継続は困難との結論に至り、「サイクルフェスタ・恵庭」は令和7年度の開催をもって終了することとなりました。

これまで参加された方々への周知対応につきましては、サイクルフェスタ・恵庭運営協議会のホームページ並びに市ホームページ、広報えにわ、SNSなどを活用し、周知しているところです。

「サイクルフェスタ・恵庭」にご参加・ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げ、事業終了の報告といたします。

7点目は、「『市長とトーク』事業」についてであります。

今年度より、市民の方で構成される少人数の団体・グループと私とが、市政に関し直接対話をし、意見交換を行うことで、市民ニーズの把握はもとより、その場で寄せられたご意見を市政に反映するとともに、市政に対する市民の関心を高めることを目的としたものであります。

これまでの「市民の広場」では、市がテーマを決めて実施しておりましたが、「市長とトーク」では、申し込みをする方の希望するテーマや内容について対話を行うことで、市民の直接の声を聴き、市の施策に反映できる機会としてまいりたいと考えております。

8点目は、「渡島廃棄物処理広域連合のごみ受入れ」についてであります。

4月29日に、渡島廃棄物処理広域連合のごみ処理施設「クリーンおしま」において爆発を伴う火災が発生したことにより、現在、ごみ処理が全面停止となっております。

復旧には年単位の相当な期間を要することから、5月14日に本市に対し、当該広域連合より、可燃ごみの受入れの依頼があり、その後、「ごみ焼却施設の処理能力」や「ごみの受入れ状況」、「受入れ予定のごみ質分析」などを調査・検討した結果、1日当たり6.5トンを上限に、市民に影響が出ない範囲で受け入れることといたしました。

また、処理手数料につきましても、市民の負担とならないよう、適正な価格を徴収することで協議を進めております。

現時点では復旧までの期間も見通せない中ではありますが、まずは受入れ期間を1年間とし、進めてまいりたいと考えております。

9点目は、「長期休み学童預かり事業の本実施」についてであります。

本事業は、共働き世帯の増加に伴い、夏休みなどの長期休業期間中に学童保育を利用したいという保護者の声を受け、令和6年度から2年間、試行として実施してまいりました。その成果と課題を踏まえ、今年度より本実施することといたしました。

なお、過去2年間の試行実績で明らかとなった課題を整理し、子育て世帯の負担軽減につなげられないかなど、検討を重ねてきました。このたび、学校法人鶴岡学園北海道文教大学より、大学施設の活用等に関するご提案をいただき、5月20日に「長期休み

学童預かり事業の更なる活動充実に向けた大学施設活用等に関する協定」を締結いたしました。

本協定により、大学施設の有効活用や将来保育士を目指す学生の参加など、安定した運営環境が整うとともに、子どもたちにとって、より充実した学びと生活の場を提供できるものと考えております。加えて、利用定員を試行時の30名から40名へと拡大するとともに、安全管理対策として、運営体制を2名から3名にするなど、受入面での充実も図っております。

本実施移行後最初となる夏休み期間の預かりについては、7月3日まで申込みを受け付けております。

なお、本事業の運営につきましては、市内で学童クラブの運営実績を有する学校法人リズム学園が担うこととなっております。

10点目は、「『公園のあり方シンポジウム2026』の開催」についてであります。

本市では、今後の公園のあり方や取組の方向性について検討するため、令和5年11月に「恵庭市公園のあり方等検討委員会」を設置し、市民や有識者の皆さまとの議論を重ねてまいりました。このたび、同委員会からいただいた提言を広く市民の皆様と共有するとともに、これからの公園のあり方について考える機会として、シンポジウムを開催いたします。

シンポジウムは、7月11日（土）午後1時30分から午後4時まで、北海道文教大学大講堂を会場に開催いたします。

当日は、一般財団法人公園財団常務理事の町田誠氏による基調講演のほか、検討委員会委員による取組報告やパネルディスカッションを予定しております。

参加は無料で、事前申込みのほか当日の参加も可能です。また、子育て世代の皆様にも安心してご参加いただけるよう託児ブースを設けておりますので、希望される方はご利用をお願いします。

本市のこれからの公園のあり方について、ともに考える機会として、多くの皆さまのご来場をお待ちしております。

11点目は、「南18号ルルマップ川橋の架替え」についてであります。

本事業は、北海道が実施するルルマップ川の河川改修に伴うもので、橋の架替えと同時に道路幅員を拡幅し、歩行者空間を新しく確保するものであります。これにより、地域住民の皆様をはじめ、通院などでこの路線を利用される歩行者等の安全性および利便性の向上を図ってまいります。

本年9月頃からは長期間の架替え工事が始まり、期間中は「仮橋」へ迂回していただくことになります。市民の皆さまにはご不便をおかけいたしますが、ご理解をお願いいたします。

今後の迂回路情報につきましては、現地看板での案内に加え、変更が生じた際も近隣の皆さまへ回覧板等で速やかにお知らせするなど、周知に努めてまいります。

●質疑応答

発表項目について

- (記者) 千歳市との１次救急外科診療体制の確保に係る連携について、市としてはどういうメリットがあると考えているか。
- (市長) 連携が実現することで、夜間医療における空白日が解消される。これにより、安定した医療体制を市民に提供できることがメリットと考えている。
- (記者) 南１８号ルルマップ川橋の架替えについて、中東情勢の影響などから資材調達や工期に遅延が生じる可能性は想定しているか。
- (市長) 河川改修を実施する北海道からは、今のところそういった情報はいただいていない。
- (記者) サイクルフェスタ・恵庭の終了について、事業継続困難と判断したのは具体的にどのようなことからか。
- (市長) 民間の方も入った「サイクルフェスタ・恵庭運営協議会」が事業主体であり、協議会として判断をしたものである。先般発生した、他自治体での重大事故を踏まえ、協議会で話し合いを行った中で、ルート区間全ての安全性や当日の安全体制などを全てチェックすることができない、という結論に至った。
- (記者) 渡島廃棄物処理広域連合のごみ受入れについて、受け入れるごみの種類や一つあたりの大きさなどの取り決めなどはあるか。
- (市長) 基本的には燃えるごみを想定しているが、当市で通常処理している燃えるごみと同質のものであるか、質の検査も行い、安全な方法で処理をしていきたい。

その他について

- (記者) 西島松地区の新市街地開発について、地権者４１名のうち未同意者２名について、どのように同意を求めていくか。
- (市長) 未同意者については拒否しているわけではない。今後機会を設け、ぜひ合意していただくようにしていきたい。
- (記者) 農地転用や文化財の発掘調査、踏切付近の渋滞解消といった課題についてはどのように取り組むのか。
- (市長) 西島松の該当地区は農地であり、農地転用や交通面の課題はあるが、必要な手続や整備を行っていく。

以上